

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福島市立森合小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒960-8003

福島県福島市森合字中谷地2番地の3

E-mail moriai-e@fukushima-city.ed.jp

Website <http://fukushima.fcs.ed.jp>

幼児児童生徒数 男子335名 女子335名 合計670名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「めあてをもって、自律的かつ協働的に学ぶ子どもを育てる」

「自他のよさに気付き、互いに協力し合う子どもを育てる」

「健康や安全に気を付け、ねばり強く運動に取り組む子どもを育てる」

を学校理念として教育活動を行っている。ESDを自己の考えを深める場と捉え、ESDの実践を通して「人と関わる力」「将来を見通す力」「多面的にものごとを考える力」の育成を目標とした。

具体的には、①地域住民との交流に関わる活動、②地域の自然・文化に関わる活動、③理科教育に関わる学習を行った。

① 地域住民との交流に関わる活動

地域には様々な特技を持った方がたくさん住んでいる。その方々の特技を子ども達の成長に生かそうと、地域学習クラブというものを本校では開催している。茶道・日本舞踊・将棋などたくさんのクラブがある。講師の方は幅広い年齢層で構成されており、高齢の方々もたくさんいる。

様々な年代の方と触れ合うことにより、人付き合いで大切なことを学び、学校を離れ地域の戻ったときにも自然にコミュニケーションを図ることができるような態度を育てている。また、異年齢集団での活動なので社会性も育むことができると考えている。

② 地域の自然・文化に関わる活動

総合的な学習の時間に、昔の森合地区の様子について話を聞いたり写真を見たりして今を見つめ直す学習を行った。また、伝統的行事の「暁参り」について、その歴史を学んだり青年会議所の方にわらじ作りやわらじ音頭を教えていただいたりした。地域学習クラブでは、森合地区の自然に触れながらフィールドワークを行った。これらの活動を通して、自分と地域の関わりを見つめ直すことができた。このような活動を通して、森合の未来、福島の未来のために何ができるか、何をしていったらよいかなど自分なりに考えることができた。

③ 理科教育に関わる学習

一人一人が予想をもち、主体的に観察や実験に取り組み、その結果を分析し、きまりを見付けたり、新たな課題に気付いたりする学習活動を重視してきた。また、新たに生まれた課題を、自分たちで実験方法を考え解決するなどし、学習内容の理解を深めてきた。理科の授業を手がかりに、一つの事象をいろいろな視点で捉えることの大切さ・面白さを実感することを通して、多面的にものを見る力を養ってきた。



① 講師の先生との交流



②他のクラブとコラボして活動発表会



③ わらじ作りを体験し伝統に触れる子ども達



④ 新たな疑問を解決しようと実験に取り組む子ども達

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 本校が独自に取り組んでいる, 放課後の地域学習クラブ)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

理科の教科書をメインに使用した。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年の教科等の指導計画の中で、ESDと関連のある単元に「ESD」と明記し、担任がESDの視点を意識して単元の計画を立てることができるようしている。さらに、ESDカレンダーを作成し横断的に学習に取り組むことができるようにしている。

また、本校は「交流を通して自分の考え広め深めていく」ことをテーマにして研修を行ってきた。そして、「協働的に課題解決に向かう」「対象と自分とのかかわりを深めさせる」という視点で授業改善に取り組み、必要感のある活動の設定、自分との関わりを考えさせる場面の設定、学びの成果を今後の活動への意欲につなげる工夫などの指導改善に努めてきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESDを研修主任が担当することにより、研修とリンクしてESDに取り組むことができるようにしている。研修全体会の時に、各学年の取組を紹介したり、実践をまとめて回覧したりして情報交換を行った。また、地域学習クラブとESDの関連を明確にし、ESDカレンダーの中に位置付けていく計画である。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学期ごとの教育課程の反省の時に、ESD活動に対する取り組みの反省も行っている。取り組み1年目の取組ということもあり、今年度当初はどのように取り組んでいったらよいか迷った先生方がたくさんいた。しかし、取り組んでいくうちに、ESDとはどういうものかを少しずつ理解し、活動に取り組むことができるようになってきた。今年度は外部評価まで至らなかったため、来年度は学校評価のアンケートの中に位置付けていきたい。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

○発信方法・・・学校便りや学級通信, ホームページ
○発信内容・・・活動の様子の写真, 子ども達の感想, どのような目的で活動を行ったかの説明 子ども達の変容 など
○得られた効果・・・新たな提案や励ましのメッセージ

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

青年会議所や地域の各種団体の協力を得て活動に取り組んだ。青年会議所の皆さんには、福島市に伝わる伝統行事(わらじ祭りや暁参り)について様々なことを教えていただいた。地域の方々は、子ども達が地域文化の伝承の担い手となってくれることを期待している。森合地区には、本当に様々な特技を持っている方がたくさんいる。また、是非子ども達に体験した欲しいと他地域から申し込んでくる方もいる。その方々とのネットワークを大切に、さらに広がりのある活動を行っていきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は他のユネスコスクールとの交流・ネットワーク構成までは至らなかった。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

- 予想をしっかりと自分で確かめる計画を立てて課題解決学習に取り組む姿が多く見られるようになった。
- 核家族化・価値観の多様化が進む中で、様々な年代の人々と触れ合う機会が多くあることは、人間関係力を育てるのに非常に有効である。
- 開かれた学校とした、家庭や地域社会をつなぐ大切な拠点となっている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度の活動の大きな2つの柱

健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近な地域までにわたって保全されるとともに、それらを通じて国民一人一人が幸せを実感できる生活を享受でき、将来世代にも継承することができるという持続可能な社会の担い手を育てるために、次に2つの活動を大きな柱として活動していきたい。

1 放射線教育の推進

東日本大震災から7年。小学校には、当時の様子を知る子ども達がほとんどいなくなった。そこで、児童一人一人に「放射線に対する正しい知識の理解を基に、適切に判断し行動する」力を育成することがますます大事になってくると考える。“放射線とはどういうものか”から始まり、福島のこれからを生きる上で考えていかなければならないことなどを学習していきたい。

2 再生可能エネルギー教育の推進

6年生の活動として「持続可能な社会をめざして」をテーマとし、県内の風力発電所や太陽光発電所などを見学し、地球環境について学習していく。

なお、今年度の活動は来年度も引き続き実施する予定である。